

金融動向

◇マネーサプライの伸び率は引続き低下

(金融市場——前年を上回る資金不足)

9月の金融市場をみると、銀行券は月前半の還流が前年をかなり上回ったうえ、月末にかけての増発にも前年ほどの盛上りがみられなかったことから、前年(発行超1,937億円)とは様変りの1,567億円の還収超となった。一方、財政資金は、国債発行額が前年比減少したほか、外為会計も前年を上回る払超となったものの、一般財政が税収の好伸や郵便貯金の増加等から払超幅が前年比大幅に縮小したため、全体では2,011億円の揚超(前年払超1,752億円)となった。この結果、「その他勘定」(揚超975億円、前年同131億円)と合わせた月中資金不足額は1,419億円と前年(同316億円)を上回っ

資金需給実績

(単位・億円)

	55年		
	8月	9月	前年同月
銀行券	△ 1,778	△ 1,567	1,937
財政資金	△ 10,416	△ 2,011	1,752
その他	△ 957	△ 975	△ 131
資金過不足	9,595	1,419	316
準備預金	△ 2,135	△ 553	△ 3,479
本行信用	11,730	1,972	3,795
うち貸出	△ 1,756	472	△ 1,905
債券売買	986	—	—
債券短期買入	—	—	—
買入手形	12,500	1,500	5,700
売出手形	—	—	—
銀行券発行残高	159,778	158,211	151,820
準備預金残高	33,860	34,413	22,339
本行貸出残高	22,348	22,820	20,513
本行買入手形残高	43,500	45,000	14,500

(注) 4印…「銀行券」は還収超、「財政資金」は揚超、「その他」は揚超、「資金過不足」は資金余剰、「準備預金」は積増し、「本行信用」は信用縮小。

た。これに対して日本銀行は主として手形買オペレーションにより資金を供給した。

9月の短期金融市場をみると、無条件物コールの中心レートは上中旬中銀行券の順調な還流を中心とする余剰地合いを映じおおむね弱含みに推移したあと、下旬入りとともに民間給与支払い、期末決済金流出などから強含みに転じたが、月末日には交付金支払いに伴う需給の大幅引緩みから反落、結局月中では0.3125%低下し11.3125%で越月した。一方、手形売買レート(2山越買手)は、外銀筋が円転採算とのからみ等から前月末以降手形市場での調達も増やしていることや現先レートがジリ高基調をたどったことなどから強含みで推移、月中0~0.0625%上昇し、月末水準は11.5%となった。この間市場資金量の月中平残は地銀、信託等出手筋のポジション悪化を映じ引続き減少傾向をたどった。ただ、末残ベースでは月末日の交付金支払いに伴う地銀筋の大幅ローン放出を主因にコール市場が3兆円台を回復したことから4か月ぶりに増加した。

(通貨——マネーサプライの伸び率は引続き低下)

9月の銀行券平残は、前年同月比+4.4%と前月(+5.7%)に比べさらに鈍化し、昭和33年11月(+4.0%)以来の極めて低い伸びとなった(季節調整済み前月比では-0.2%<前月+0.6%>)。これには生産、出荷や個人消費等の実体経済活動の落着き基調が続いていることに加え、金利感覚の高

銀行券の動き

(単位・%)

	前年同期(月)比		季節調整済み前月(月)比	
	月末発行高	平均発行高	月末発行高	平均発行高
54年10~12月平均	8.7	10.3	1.7	2.1
55年1~3月平均	9.6	9.8	1.7	2.4
4~6ヶ月	8.3	8.8	3.0	2.7
7~9ヶ月	5.3	5.6	-1.2	-1.6
55年6月	7.8	8.3	0.2	-0.7
7ヶ月	5.2	6.7	-2.9	-1.4
8ヶ月	6.6	5.7	3.3	0.6
9ヶ月	4.2	4.4	-0.3	-0.2

(注) 季節調整はセンサス局法による。

通貨関連指標の動き

	平残前年同期(月)比					末残前年同期(月)比		
	通貨(M ₁)		定期性預金	通貨 + 定期性預金 + 譲渡性預金 (M ₂ +CD)	M ₂ +CD	参 考		
	現金通貨	預金通貨				M ₁ '+CD	M ₃	
	%	%	%	%	%	%	%	
54年7～9月平均	9.9	11.2	9.5	11.8	11.7	10.0	12.5	
10～12 〃	8.0	10.5	7.3	11.8	11.2	7.5	11.1	
55年1～3月平均	7.2	9.2	6.7	11.4	10.6	7.6	10.8	
4～6 〃	4.7	8.5	3.7	11.8	10.1	5.3	9.9	
55年5月	4.1	7.9	3.2	12.4	10.3	5.7	10.1	
6 〃	3.0	8.2	1.6	12.0	9.6	5.0	9.5	
7 〃	0.5	6.3	△ 1.0	12.1	8.8	3.6	9.4	
8 〃	△ 1.2	4.9	△ 2.9	12.5	8.3	5.8	10.1	

(注) 1. 平残各項目およびM₁'+CD末残は、一部日本銀行統計局推計による。

2. M₁'=M₁+法人準通貨

M₂=M₁+準通貨

M₃=M₂+郵便局、農協、漁協、信用組合、労働金庫の預貯金+信託(金銭信託、貸付信託)

CD=マネーサプライ対象金融機関の譲渡性預金のうち、一般(法、個人)、公金分(預金者別内訳は発行時の預金者区分による)。

ただしM₃の55年4月以降の計数は速報。

まり等を背景とした現金節約の動きも影響しているとみられる。

8月のM₂+CD平残前年同月比は、+8.3%と前月(+8.8%)比さらに低下し前月に引続き既往最低を更新した。8月の通貨種類別動向(平残前年比)をみると、現金通貨の伸び(+4.9%)が前月(+6.3%)比大幅な低下を続けたほか、預金通貨も定期性預金、国債・金融債など長期高利回り資産へのシフトや企業筋の手元取崩しの動きを映じて一段と低下した(-2.9%、前月-1.0%)。この間、定期性預金の伸び率(+12.5%)は、前月(+12.1%)比やや上昇した。

一方、8月のM₂+CD末残前年同月比は月末休日に伴う預金高どまりの影響等から+8.9%と前月(+8.0%)比上昇した。これを金融機関の信用供与面からみると、対民間信用の寄与度が月末休日に伴う貸出の高どまりから上昇したほか、対外資産の寄与度も国際収支の改善から小幅の上昇をみた。

(財政資金——52年以来3年ぶりの揚超)

9月の財政資金対民間収支をみると、一般財政は普通交付税交付金が前年を上回って交付された

ものの、法人税、源泉所得税を中心に税収が好伸したほか、郵便貯金も大幅増加を続けたことなどから、5,855億円の払超と前年(同13,596億円)に比べ払超幅は大幅に縮小した。

一方、新規中・長期国債の発行(発行—償還)は9,828億円と前年(12,088億円)を下回った。この間、外為会計は1,962億円の払超(前年同244億円)となった。

この結果、総収支じりは2,011億円の揚超と9月としては52年以来3年ぶりの揚超となった(前年払超1,752億円)。

(外国為替市場——米ドル直物相場は続落)

9月の外国為替市場をみると、インターバンク米ドル直物相場(クロージング)は海外筋の円買い・ドル売り圧力が一段と強まり、月中7円20銭のドル安となった。すなわち、月初は小康状態を示したものの、中旬末にかけてはわが国国際収支の改善傾向が目立ち始めたのではないかといった見方を背景に円先高感が一段と強まり、海外筋の円買い・ドル売りや本邦メーカー筋の輸出入約が増すうしたため、ドル相場は続落商状を示した。その後、24日にはイラン・イラク紛争勃発・拡大

財政資金対民間収支実績

(単位・億円)

	55年9月		前 同 月 比
		前年同月	
一 般 財 政	5,855	13,596	△ 7,741
純 一 般	3,186	10,540	△ 7,354
租 税	△ 18,275	△ 14,119	△ 4,156
社 会 保 障	2,745	2,656	89
防 衛 関 係 費	1,017	1,059	△ 42
公 共 事 業 関 係 費	2,753	2,628	125
交 付 金	19,461	18,278	1,183
義 務 教 育 費	1,173	1,121	52
一 般 会 計 諸 払	3,696	3,373	323
資 金 運 用 部	△ 10,714	△ 6,724	△ 3,990
保 険	△ 6,405	△ 5,933	△ 472
郵 便 局	△ 1,593	127	△ 1,720
国 鉄	1,704	1,327	377
電 電	880	1,474	△ 594
金 融 公 庫	2,230	2,486	△ 256
食 管	1,126	1,568	△ 442
代 預	1,543	1,488	55
新 規 中・長 期 国 債	△ 9,828	△ 12,088	2,260
発 行	△ 9,828	△ 12,088	2,260
償 還	—	—	—
外 為	1,962	244	1,718
総 収 支 じ り	△ 2,011	1,752	△ 3,763

(注) △印は揚超。

インターバンク米ドル直物相場(クロージング)

	直物相場 (月・旬末)	スミソニアン レート比 (IMF 方 式)	直 先 (3ヵ月) スプレッド (年 率・ 月・旬末)	1日平均 出来高 直先合計 (カッコ内は うち先物)
	円	%	%	百万ドル
48年 2月14日	* 271.20	-13.57	** d 9.33	53(50)
3月19日	* 264.10	-16.62	** d 10.60	199(50)
49年 1月23日	* 300.00	- 2.67	** p 24.00	866(124)
55年 2月	249.80	-23.29	d 6.003	1,047(265)
3 〃	249.70	-23.34	d 3.684	1,109(345)
4 〃	238.30	-29.24	d 1.342	1,127(270)
5 〃	224.40	-37.25	p 2.673	1,178(214)
6 〃	218.15	-41.18	p 2.750	1,135(244)
7 〃	226.85	-35.77	p 3.173	1,086(263)
8 〃	219.20	-40.51	d 0.273	1,035(219)
9 〃	212.00	-45.28	d 1.320	1,189(283)
9月上旬	216.60	-42.19	p 0.461	1,124(291)
中 〃	212.45	-44.97	p 0.094	998(200)
下 〃	212.00	-45.28	d 1.320	1,300(323)

- (注) 1. スミソニアンレート比欄の+は円安(ドル高)、-は円高(ドル安)を表す。
 2. 直先スプレッド欄のdはディスカウント、pはプレミアムを表す。
 3. *中心相場、**直物中心相場比。
 4. 55年2月以降の直先スプレッドは実勢値。

(貸出——企業需資は増勢一服ながらなお根強い動き)

8月の全国銀行(銀行勘定)貸出は、12,696億円増と前年(5,561億円増)を大幅に上回る増加を示し、月末残高の前年比伸び率も+7.6%と前月(+7.1%)比上昇した。もっとも当月の貸出増加には月末休日による貸出高止りが影響しており、これを調整した実勢では前年を下回る増加にとどまったものとみられる。

また8月の中小企業金融機関の貸出(相互銀行は融資量)増加額も、同様の事情から相互銀行、信用金庫とも前年を大きく上回り、月末残高の前年比伸び率も前月比それぞれ上昇した。

この間、最近の企業の資金需要をみると、商社等大口の輸入関連需資が減退しているほか一般増運資金も物価の騰勢鈍化等を映じ落着き傾向をたどっているものの、設備資金が堅調裏に推移していることに加え冷夏の影響等による家電、繊維等

の報を受けて前日比5円65銭のドル急反発をみたが、国連安全保障理事会の開催等をながめ、同紛争の早期解決期待が急速に広まったため、26日にはほぼ紛争勃発前の水準に戻し、結局月末レートは212円00銭と前月末(219円20銭)を大幅に下回って越月した。

一方、先物相場は、輸出予約のカバー売り増加、特に月末付近における米ドル金利の急上昇等から直物比軟調に推移したため、ディスカウント幅は拡大した(3ヵ月先物年率、8月末0.273%→9月末1.320%)。

金融機関実質預金・貸出状況

(単位・億円)

		実 質 預 金				貸 出			
		55年		55 年		55年		55 年	
		1～3月	4～6月	7 月	8 月	1～3月	4～6月	7 月	8 月
全 国 銀 行	増 減 額(末 残)	30,863	17,491	- 9,928	7,889	20,492	10,023	10,038	12,696
	前 年 比 増 減 率(%)	+ 33.0	- 11.2	(-11,100)	2.2倍	+ 81.2	- 12.4	+ 21.7	2.3倍
	残高の前年同期(月)比(%)	+ 7.3	+ 7.5	+ 7.4	+ 7.7	+ 7.3	+ 7.0	+ 7.1	+ 7.6
	季調済み残高の前期(月)比(%)	+ 2.3	+ 2.2	+ 0.6	+ 1.0	+ 1.9	+ 1.9	+ 0.6	+ 1.3
都 市 銀 行	増 減 額(末 残)	11,267	23,728	- 3,270	5,755	9,969	9,392	3,005	5,034
	前 年 比 増 減 率(%)	+ 26.0	3.0倍	(- 5,282)	+ 55.3	+ 62.4	+ 12.0	- 3.6	2.6倍
	残高の前年同期(月)比(%)	+ 5.0	+ 6.8	+ 7.6	+ 7.8	+ 6.7	+ 6.7	+ 6.7	+ 7.2
	季調済み残高の前期(月)比(%)	+ 1.8	+ 2.7	+ 0.8	+ 0.9	+ 1.8	+ 1.9	+ 0.4	+ 1.1
地 方 銀 行	増 減 額(末 残)	19,083	-4,821	- 7,270	2,963	7,268	-1,415	6,114	7,308
	前 年 比 増 減 率(%)	+ 59.0	(11,828)	(- 4,465)	(- 692)	2.4倍	(- 805)	+ 49.2	2.3倍
	残高の前年同期(月)比(%)	+ 12.0	+ 9.7	+ 8.2	+ 8.9	+ 9.3	+ 8.4	+ 8.8	+ 9.9
	季調済み残高の前期(月)比(%)	+ 3.2	+ 1.7	+ 0.0	+ 1.6	+ 2.3	+ 2.4	+ 1.1	+ 1.9
長 期 信 用 銀 行	増 減 額(末 残)	1,430	- 140	438	- 689	3,258	2,361	964	532
	前 年 比 増 減 率(%)	+ 29.2	(- 603)	(- 555)	(- 237)	+ 32.3	- 2.2	+ 5.4	- 16.9
	残高の前年同期(月)比(%)	- 2.5	- 1.1	+ 3.1	- 0.6	+ 6.9	+ 6.9	+ 6.9	+ 6.8
	季調済み残高の前期(月)比(%)	+ 1.3	+ 1.1	+ 2.7	- 4.6	+ 1.8	+ 1.8	+ 0.7	+ 0.4
相 互 銀 行	増 減 額(末 残)	-1,924	1,197	1,072	198	3,264	1,678	2,431	2,973
	前 年 比 増 減 率(%)	(-2,280)	- 75.4	2.0倍	(- 285)	2.4倍	- 47.5	- 1.7	3.1倍
	残高の前年同期(月)比(%)	+ 10.3	+ 8.6	+ 8.7	+ 8.9	+ 10.4	+ 8.7	+ 8.5	+ 9.6
	季調済み残高の前期(月)比(%)	+ 2.3	+ 1.7	+ 0.8	+ 1.0	+ 2.3	+ 1.9	+ 0.6	+ 1.8
信 用 金 庫	増 減 額(末 残)	-1,527	5,270	2,554	3,491	2,989	251	3,530	4,180
	前 年 比 増 減 率(%)	(-1,335)	- 26.0	- 17.3	+ 36.0	2.5倍	- 90.7	- 12.8	+ 66.5
	残高の前年同期(月)比(%)	+ 12.3	+ 11.1	+ 10.8	+ 11.0	+ 13.8	+ 12.3	+ 11.7	+ 12.3
	季調済み残高の前期(月)比(%)	+ 2.8	+ 2.5	+ 0.8	+ 1.3	+ 3.1	+ 2.2	+ 0.8	+ 1.7

- (注) 1. 残高の前期(月)比は季節調整済み。
 2. 前年比増減率のカッコ内は前年の実数。
 3. 55年8月は速報値。

の販売不振や鉄鋼、化学等素材メーカーの在庫調整の進行に伴う後向き資金が台頭していることなどから全体としてみれば企業需資はなお根強い動きを示している。

これに対し金融機関の融資態度をみると、貸出わく繰り窮屈感のなお強い都市銀行等では引続き抑制的融資姿勢を持しているが、地方銀行、相互銀行等の一部には先行きの融資基盤確保をねらい今次プライムレート引下げに応じた弾力的付利方針と絡めこれまでに比べ積極的な貸出態度をとる向きもみられ始めている。

(預金、ポジション——全国銀行の預金吸収地合いは引続き不芳)

8月の全国銀行実質預金増加額は、7,889億円と前年(3,601億円)を大きく上回り、月末残高の前年比伸び率も+7.7%と前月(+7.4%)比上昇した。もっとも当月の預金増加は、月末休日に伴う預金高止りのほか自由円預金の流入増等の要因による面が強く、これらを調整した国内一般預金は前年を下回る増加にとどまるなど預金吸収地合いは引続き不芳となっている。

また8月の中小企業金融機関の実質預金(相互

銀行は実質資金量増加額も、相互銀行、信用金庫とも上記月末休日要因の影響から前年を大幅に上回り、月末残高の前年比伸び率もそれぞれ前月を上回った。

この間、8月の全国銀行(銀行勘定)の資金ポジションをみると、上記預貸事情を映じ月中4,674億円の悪化と前年(同4,470億円)並みの悪化となった。

(貸出金利—54年3月以来17ヵ月ぶりに低下)

8月の全国銀行(銀行勘定)貸出約定平均金利は、今次プライムレート引下げに伴う短期金利の

低下を主因に月中 $\Delta 0.018\%$ (うち短期金利、 $\Delta 0.053\%$)と54年3月以来17ヵ月ぶりに低下し、月末水準は8.875%となった。当月の短期貸出金利の引下げ状況を見ると、①短期プライムレート引下げ(8月23日実施)後の営業日数が短いことに加え②月末休日に伴い商手書替えの一部が翌月にズレ込んだことなどから表面的には小幅の引下げにとどまったが、ひとところに比べ金融機関の融資姿勢が弾力化しつつある状況を映じ、プライム、準プライムレート適用先をはじめとして順便な引下げが進捗した模様。

なお、8月の中小企業金融機関の貸出金利は、相互銀行が月中 $+0.029\%$ と小幅ながら上昇を示すなど引続き上昇傾向をたどったが、これは中小企業金融機関においてはプライムレート適用貸出等の比率が小さいことに加え長期金利の既往利上げ積み残し分の引上げが小幅ながら進んだことを映じたもの。

◇株式市況は続伸、公社債市場利回り・現先レートは小幅上昇

9月の株式市況をみると、月初来中旬末まで高水準の外人買い持続を支えに、物色人気が高まり、重電、鉄鋼等大型株や弱電等優良株を中心に上伸を続けた(12日、旧ダウ7,000円台乗せ)。その後、下旬にはイラン・イラク紛争の拡大をいや気して一時下げる場面がみられたものの、月末にかけては同紛争のわが国経済に与える影響は軽微との見方から外人買いが依然活発に続いたことに加え、証券会社の実質新年度入りに伴う営業姿勢積極化もあって大型株、中堅優良株に対する物色が一段と強まり上伸を続け、結局月末東証指数は既往最高値の488.79と前月末比10.23の上昇となった。この間、月中1日平均出来高は大型株の活況から393百万株(前月301百万株)と本年2月(550百万株)以来の高水準となった。

9月の公社債流通市場をみると、長期債利回りは月初先行き金利低下見通しから証券会社の買い姿勢が積極化し、証券会社間の売買を中心に小幅低下をみたが、その後は信託等国内投資家筋が引

金融機関ポジション動向

(単位・億円)

	55年		55年		
	1~3月	4~6月	7月	8月	
残 高 期 ・ 月 末	全国銀行	$\Delta 78,540$ ($\Delta 82,500$)	$\Delta 64,599$ ($\Delta 75,721$)	$\Delta 85,708$ ($\Delta 83,479$)	$\Delta 90,382$ ($\Delta 87,949$)
	都市銀行	$\Delta 95,538$ ($\Delta 98,544$)	$\Delta 79,085$ ($\Delta 96,775$)	$\Delta 86,766$ ($\Delta 97,111$)	$\Delta 85,662$ ($\Delta 96,849$)
	地方銀行	16,370 (13,763)	12,344 (18,222)	2,450 (10,662)	$\Delta 3,641$ ($\Delta 6,183$)
	相互銀行	4,239 (4,763)	4,755 (5,871)	3,620 (4,032)	$\Delta 2,375$ ($\Delta 3,267$)
	信用金庫	27,121 (28,548)	31,133 (30,610)	29,825 (30,004)	29,177 (30,061)
増 減 額	全国銀行	14,666 (16,412)	13,941 (6,779)	$\Delta 21,109$ ($\Delta 7,758$)	$\Delta 4,674$ ($\Delta 4,470$)
	都市銀行	6,283 (2,181)	16,453 (1,769)	$\Delta 7,681$ ($\Delta 336$)	1,104 (262)
	地方銀行	9,329 (12,008)	$\Delta 4,026$ ($\Delta 4,459$)	$\Delta 9,894$ ($\Delta 7,560$)	$\Delta 6,091$ ($\Delta 4,479$)
	相互銀行	$\Delta 3,067$ ($\Delta 181$)	516 (1,108)	$\Delta 1,135$ ($\Delta 1,839$)	$\Delta 1,245$ ($\Delta 765$)
	信用金庫	$\Delta 1,089$ ($\Delta 479$)	4,012 (2,062)	$\Delta 1,308$ ($\Delta 606$)	$\Delta 648$ ($\Delta 57$)

(注) 1. 資金ポジションの定義。

全国銀行=コール・ローン+買入手形+金融機関貸付金+銀行引受手形(余資運用分)-借入金-コール・マネー-完済手形

相互銀行=コール・ローン+買入手形+金融機関貸付金+銀行引受手形-借入金-コール・マネー-完済手形

信用金庫=コール・ローン+買入手形+金融機関貸付金+全信連短資+全信連預け金-借入金-コール・マネー-政保債引当預け金

2. カッコ内は前年同期(月)。

3. 55年8月は速報値。

続き買い見送り姿勢を堅持する一方、ポジション悪化をみた地相銀筋の決算調整を兼ねた売りが増加したため、じり高傾向をたどった。下旬にかけてはイラン・イラク紛争の拡大、米国公定歩合の引上げ等先行き不透明材料が加わったため、買い見送り姿勢が一段と強まり、上昇基調を続けた。

これを指標銘柄である6.1%国債(第10回)上場利回りで見ると、前月末の9.500%から4日には9.330%に低下したものの、その後はじり高に推移し、結局月末レートは9.600%と月中0.100%の小幅上昇を示した。

この間、現先レートは、事業法人の買いが手許

株 式 市 況 (東京市場・第1部)

	株 価 指 数						予 想 平 均 利 回 り	1 日 平 均 出 来 高	日 証 金 差 引 き 融 資 高
	東 証			ダ ウ					
	最 高	最 低	期・月・旬末	最 高	最 低	期・月・旬末			
55年 1~3月	472.65(2/14)	449.01(3/10)	454.46	6,839.86(2/14)	6,507.16(3/10)	6,556.19	1.58	450	2,195
4~6月	473.55(6/23)	450.40(4/ 1)	472.77	6,904.81(4/25)	6,502.80(4/ 1)	6,870.70	1.49	308	2,236
7~9月	488.79(9/30)	465.22(7/ 7)	488.79	7,076.46(9/30)	6,708.49(7/ 7)	7,076.46	1.49	329	2,076
55年 6月	473.55(23)	463.93(10)	472.77	6,870.70(30)	6,761.25(25)	6,870.70	1.49	238	2,236
7月	471.20(21)	465.22(7)	470.90	6,863.84(3)	6,708.49(7)	6,819.63	1.52	295	2,074
8月	479.53(25)	465.68(6)	478.56	6,930.66(27)	6,739.89(7)	6,910.87	1.51	301	1,876
9月	488.79(30)	478.14(1)	488.79	7,076.46(30)	6,889.54(1)	7,076.46	1.49	393	2,076
55年 8月上旬	469.44(1)	465.68(6)	468.35	6,793.63(2)	6,739.89(7)	6,766.79	1.52	280	1,956
中月	478.39(20)	470.01(11)	478.39	6,878.76(20)	6,778.54(11)	6,878.76	1.52	364	1,957
下月	479.53(25)	476.85(28)	478.56	6,930.66(27)	6,853.69(21)	6,910.87	1.51	262	1,876
9月上旬	481.07(10)	478.14(1)	481.07	6,956.21(10)	6,889.54(1)	6,956.21	1.49	344	1,887
中月	487.12(19)	482.30(11)	487.12	7,041.66(19)	6,978.89(11)	7,041.66	1.47	436	2,002
下月	488.79(30)	481.89(24)	488.79	7,076.46(30)	6,972.62(62)	7,076.46	1.49	411	2,076

(注) 1. 予想平均利回りは期・月・旬末(山一証券調べ全銘柄対象)。
2. 株価指数のカッコ内は最高・最低値の月日。

公 社 債 上 場 相 場 (東京証券取引所)

	国 債 (第22回債)	政 保 債 (鉄道債)	地 方 債 (東京都債)	利 付 金 融 債 (3 銘柄 平 均)	一 般 事 業 債		電 力 債 (7 銘柄 平 均)	加 入 者 負 担 利 付 電 債 (最近発行 5 銘柄 平 均)	
					A A 格 債 (12銘柄 平 均)	A 格 債 (3 銘柄 平 均)			
償 還 年 月	64/11	58/4	58/5	57/1~ 59/8	57/7~ 61/10	57/5~ 60/12	57/7~ 62/4	64/12~ 65/9	
利 回 り (%)	55年 7月 末 8月 9月	8.470 8.651 8.740	9.340 9.711 9.873	9.224 9.568 9.735	9.110 9.416 9.563	8.688 8.870 8.930	8.706 8.850 8.906	8.525 8.688 8.761	8.320 8.450 8.498
価 格 (円)	55年 7月 末 8月 9月	95.99 95.12 94.71	94.25 93.65 93.50	95.25 94.65 94.45	96.75 96.30 96.16	100.52 100.05 99.91	101.61 101.25 101.13	100.20 99.80 99.64	99.97 100.11 100.01
最 近 の 新 発 債 応 募 者 利 回 り (%)	8.546	8.700	8.700	8.600	(8.700) 8.742	(8.800) 8.842	(8.700) 8.742	8.600	

(注) 事業債の発行条件は12年ものと10年もの(カッコ内)の2本立て。

余資の減少などから低調化する一方、ポジション悪化による地銀筋の売りが増すうしたため、下旬央まではば一貫して上昇した。その後月末にかけては期末資金繰りに目途をつけた事業法人の買いが漸増したため低下したものの結局月中では小幅の上昇を示した(3ヵ月物、8月末10.948%→9月末11.312%)。

9月の増資(上場会社有償払込み分)は公募増資のプレミアム還元ルールの厳格化(10月持寄り分以降適用)をながめた増資実行繰上げの動きもあって2,598億円(前年1,946億円)と引続き前年を上回った。

9月の起債(純増ベース、国債、金融債を除く)は、発行条件の改訂を見越した発行抑制や資金繰りの好転を背景に電力会社の起債見送り・減額が相次いだことも加わり事業債、地方債、政保債とも前年をかなり下回り、全体では1,240億円と前年(2,747.5億円)比5割強の減少となった。消化状況を見ると、事業債は起債額が180億円と7月(280億円)、8月(700億円)をさらに下回る低水準となったこともあって募集開始前の段階で投資家の買い予約が殺到、前月同様極めて順調な消化を示した。

9月の転換社債の発行は、1銘柄30億円(前月ゼロ)にとどまり、依然低調に推移した。

9月中・長期国債発行額(額面ベース、市中発行分)は、長期国債8,000億円、5年物割引国債515億円、3年物中期利付国債1,517億円の計

10,032億円となった(前年14,376億円)。このうち、証券会社引受・募入分の消化状況を見ると、長期国債は個人向けが前月に引続き伸び悩んだものの、農林系統金融機関、生保等向けの増加から順調に販売されたほか、5年物割引国債も発行額が少なかったことに加え、59年からの利子・配当所得の総合課税移行をながめ、個人投資家の購入意欲が高まっていることもあって払込日を待たずに完売となった。一方、3年物中期利付国債は、証券会社落札額が多額にのぼったことやクーポンレートが8月発行分に比べ引下げられた(8.4→8.3%)こともあって前月とは様変りに売行き不振を示した。

9月の金融債発行額(純増ベース)は、998億円減(前年7,491億円増)と4ヵ月ぶりに前年を下回った。これは利付債が事業法人等機関投資家向け中心にまずまずの売行きを示したものの、割引債が前年9月の発行増(発行条件の改定等による)から償還がかさみ、純減となったことによる。

起債状況

(単位・億円、カッコ内純増額)

	55年		55年		
	4~6月	7~9月	7月	8月	9月
事業債	3,810 (2,992)	1,160 (81)	280 (43)	700 (392)	180 (268)
うち電力	3,140 (2,694)	1,040 (504)	250 (49)	670 (506)	120 (51)
一般	670 (298)	120 (423)	30 (92)	30 (114)	60 (217)
地方債	1,500 (1,322)	1,775 (1,579)	570 (513)	645 (587)	560 (479)
政保債	3,960 (3,781)	3,440 (2,798)	950 (902)	950 (867)	1,540 (1,029)
計	9,270 (8,095)	6,375 (4,458)	1,800 (1,372)	2,295 (1,846)	2,280 (1,240)
金融債	37,182 (7,512)	30,512 (2,453)	11,084 (1,202)	6,367 (2,249)	13,061 (998)
うち利付	14,097 (5,176)	11,128 (3,544)	4,255 (1,250)	3,280 (1,172)	3,592 (1,122)
新規中・長期国債	28,398 (28,398)	25,718 (25,718)	9,184 (9,184)	8,019 (8,019)	10,032 (10,032)
うち証券会社引受	4,100	9,015	3,100	2,700	3,215
転換社債	565	30	0	0	30

(注) ※入札発行にかかわる証券会社募入分は含まず。

有償増資推移(1・2部合計)

	有償増資社数		有償増資資金調達総額		うち額面払込み額		プレミアム額	
	前年		前年		前年		前年	
	社	社	億円	億円	億円	億円	億円	億円
55年4~6月	25	53	1,037	1,317	199	254	838	1,063
7~9月	87	90	4,279	2,861	1,029	1,159	3,250	1,702
55年7月	19	17	798	292	246	42	552	250
8月	15	18	883	623	82	67	801	556
9月	53	55	2,598	1,946	701	1,050	1,897	896